

書 評 : R.T.J. Cappers, R. Neef & R.M. Bekker. 2009. *Digital Atlas of Economic Plants*, vols. 1, 2a, 2b. Barkhuis & Groningen University Library, Groningen (Groningen archaeological studies 9). vol. 1, 527 pp.; vol. 2a & 2b, viii+1508 pp. ISBN 9789077922590. € 325.00.

この本は *Taxon* の書評欄 (H.W. Lack. 2011. *Taxon* 60: 1231–1232) に昨年紹介されていたのでご存じの方もいるかと思うが、オランダのフローニンゲン大学とドイツ考古学研究所、ベルリン自由大学植物園・植物標本館が所蔵する有用植物 272 科 1656 属 3953 種のカラー図鑑である。対象としている植物は、食用植物と、食品添加物、家畜飼料、蚕などの無脊椎動物の飼料、蜜源植物、薬用植物、儀礼用植物や楽器材料、有毒植物、防虫・殺虫植物、園芸植物、素材植物、燃料材の 12 のカテゴリーに区分されている。第 1 巻の最初には、英語とドイツ語、オランダ語による序論とグロッサリー、および引用文献が 90 ページほどあり、この巻の残りはすべて薬名と英語、ドイツ語、オランダ語、スペイン語、フランス語、トルコ語、アラビア語 (アラビア文字とアルファベット表記)、サンスクリット語、ヒンディー語、マラヤム語、中国語 (漢字とピンイン) による索引となっている。そして第 2 巻には、科名のアルファベット順に、対象とする植物の花序や、果実、種子、葉、樹皮、最終産品がカラーで提示されている。*Taxon* の書評にもあるように、植物体の全体写真などはなく、もっ

ぱら産品として利用される部分を対象としている。たとえば *Glycine max* の項には 3 ページ渡って、いくつかの品種の種子の写真ほかに、ダイズ油や発酵させたり焼いたりした種子、テンペの写真が掲載される。アンズ *Prunus aremeniaca* の項には、生の果実の全形と縦断面のほか、乾燥した外果皮と中果皮、乾燥果実のペースト、アンズ油を使った石けん、内果皮、種子などの写真が提示される。しかしこうした写真のページには種名と器官名、標本番号が記されているだけで、一切記載は無い。実はこの本は、同名の Web ページ (*Digital Atlas of Economic Plants*; <http://www.plantatlas.eu/za.php>) と一緒に企画されたもので、考古遺物の同定を目的としており、本の購入者は、印刷では確認できない標本の詳細を画面上で確認できるようにになっている。ただし Web ページにも標本の採集情報は掲載されておらず、もっと情報が欲しいところではあるが、世界の有用植物を、利用する部分ごとに、これだけ簡単に閲覧できるようにしたことは敬意を表すべきであろう。

(能城修一)

書 評 : 馬 金双. 2011. 東亜高等植物分類学文献概覧. 505 pp. 高等教育出版社, 北京. ISBN 978-7-04-032948-3. 89 元.

中国は地域フロアの研究が非常に盛んな国である。中国に分布する 31,180 種の維管束植物は、1959 年に刊行が始まり 2004 年に完結した『中国植物誌』全 80 巻 (計 126 冊) に網羅された。省単位の植物誌も大部分の刊行が終わり、省よりも小さな地域や山地単位の植物誌をあわせると、膨大な数の地域植物誌が刊行されてきた。本書はこれらの地域植物誌を含む、東アジアの植物分類学に関連する書籍や雑誌 1200 編の、内容の解説つきの文献目録である。中国とその周辺国のフロア研究の現状を知り、東アジアの植物地理研究を進めるための必携の書籍になるだろう。本書には東アジアの地域植物誌各巻に掲載されている科がリストアップされ、多くの巻からなる植物誌から目的の分類群を探し出す際に便利である。各植物誌に掲載された分類群の数が記載され、各地域の植物の種多様性の比較ができる

ようになっている。著者の馬博士は、植物分類学だけではなく現生メタセコイアの発見史についても多くの総説を公表しており (Ma (<http://www.metasequoia.org/>)), 中国のフロア研究史にも詳しい。本書に詳しく書かれた各文献の刊行の歴史やエピソードからは、中国のフロア研究史の概要を知ることができる。付録として掲載されている中国内外のハーバリウムの紹介や、中国、韓国、日本の行政区名のリストや表記法、日本人名のアルファベット表記、日本の西暦と年号の対応表は、便覧として非常に役にたつ。本書によると、全巻刊行が望まれる *Flora of Japan* は高価格の世界記録を塗り替えるそうであるが、中国の物価が上昇し続けると地域植物誌を集めるのもだんだん難しくなってくるであろう。

(百原 新)